

# 白石の史実再発見

白石市は古くから歴史・文化に恵まれた伝統ある地域です。これまで大切に守られてきた歴史資料の「**據旗記**」について、白石市歴史文化アドバイザーの荒武賢一朗（東北大学）氏に解説していただきました。

（生涯学習課） ☎22-1343

おじいさんやおばあさん、近所の方々、あるいは学校の先生から、白石で起こった出来事や昔話などを聞かれた経験はあるでしょうか。これを「口承」と呼びますが、古くからの言い伝えを若い世代に語り継ぐことは重要なことです。

その一方で、私たちは「古文書」と呼ばれる古い手紙やノート、本といった歴史資料から、当時の人々が何を考え、どのような生活をしてきたのかを明らかにしています。口承と古文書、そして歴史的な建物などが揃うことで、地域の歴史を詳しく理解できるのです。



▲複製された據旗記の表紙



▲片倉家臣の旗が色鮮やかに描かれている。デザインは家臣ごとに異なり、個性豊かなデザインとなっている

平成29年4月、富士ゼロックス株式会社から「**據旗記**」の複製が白石市に寄贈されました。本物と見比べると、驚くほどそっくりにできています。この「**據旗記**」は、江戸時代に白石城主であった片倉氏とその家臣たちを紹介し、多彩な色合いでそれぞれの武士が持つ「**據旗**」を見事に描いています。映画やテレビで戦国時代の合戦を再現するとき、戦っている武士たちが馬に載ったような旗をつけています。そこには、家紋や戦いの決意を示す文字（たとえば、武田信玄は「**風林火山**」をかけたが、その旗指物を白石では「**據旗**」と呼んでいたようです。據旗とは、武士が戦場で「ここにいるぞ」とアピールする目印と解釈できます。



▲據旗記の作者小関雲洋が描いた白石城。明治に入り解体されてしまう前の白石城が克明にとらえられている

分厚い冊子の據旗記が完成したのは、明治維新が近づきつつある文久年間（1861〜64年）と推定されます。作者は、白石生まれの小関雲洋（嘉永5・1852年生〜大正14・1925年没）で、彼は同じく白石出身の川村春洋に絵を学び、「白石城之図」など幕末期から明治時代の白石を描く画家でした。

今のところ、雲洋について詳しいことはわかっていませんが、明治13年（1880年）の古文書によれば、白石市中町に住んで表具屋を経営していたと考えられます。ここでは雲洋と思われる人物が、近くの家から頼まれて襦を販売していますから、画家としても多くの作品を手がけつつ、職人としても活躍していたのでしょう。

私たちが生まれ育ち、毎日の生活を過ごす地域の歴史を知ることが大変重要で現代社会にも役立ちます。小関雲洋が描いた白石の絵画は、その美術作品としての価値はもちろんのこと、およそ150年前の白石がどのような町だったのかを伝える貴重な歴史資料でもあります。

今回寄贈された「**據旗記**」の複製は、8月1日から白石城歴史探訪ミュージアム2階展示スペースにて一般公開されます。入場無料ですので、ぜひお越しください。

## 【特集】今、中学生の野球が熱い！ 第34回全日本少年軟式野球 宮城県大会で優勝！ 東北Aブロック予選会に出場！！

（公財）全日本軟式野球連盟が主催する「第34回全日本少年軟式野球大会」。本市では、市内中学校から選ばれた3年生たちでつくるチーム「オール白石」で、8月6日から横浜スタジアムで開催される全国大会出場に挑んだ。

この特集では、全国大会出場に挑んだ選手たちの姿を通して少年野球の現状に迫った。



### 本

市に6校ある中学校のうち、白石、福岡、東の3つの中学校に軟式野球部がある。（公財）全日本軟式野球連盟が主催する「第34回全日本少年軟式野球大会」は、全国中学校総合体育大会と並び、「**中学生の甲子園**」とも呼ばれる中学生球児あこがれの大会である。

本市では、この3校から選ばれた3年生たちでつくるチーム「オール白石」で全国大会出場に挑んだ。

全国大会に出場するためには、仙南ブロック予選会、宮城県大会、そして、山形県、福島県、宮城県の代表が出場する東北Aブロック予選会で優勝しなければならぬ。

5月20日に仙台市野球場で開催された仙南ブロック予選会には、6チームが出場。準決勝から出場した「オール白石」は、山下中学校（山元町）を3対0で破り決勝へ。決勝の大河原中学校（大河原町）との対戦では、1回の裏に1点を先制されたが、2回の表に3点を取って逆転、その後も得点を重ねて7対2で見事優勝し、宮城県大会にコマを進めた。

6月17・18日に大崎市の鹿島台球場で開催された宮城県大会には、中総体の県大会に選手登録をした選手は出場できないため、白石刈田地区中総体で優勝した福岡中学校の選抜選手を除き、白石中学校と東中学校の3年生部員20人で大会に臨んだ。

県大会には、6つのブロックから合計8チームが出場し、1回戦で袋原中学校（仙台市）を7対1と逆転で破り、続く準決勝で蛇田中学校（石巻市）と対戦。